

地域医療の要「断らない病院」

⑬① 所沢明生病院 (埼玉県所沢市)



周囲が森や住宅地に囲まれた丘の上に建ち、地域医療のシンボリックな建物となっている

東京のベッドタウン、埼玉県所沢市の椿峰と呼ばれる丘の頂付近に、木々に囲まれた所沢明生病院がある。かつてニュータウンとして開発されたこの地域も、今は高齢者が多くなり医療機関が足りない状態だ。そのような中、同院では内科、整形外科、心臓血管外科など16の科を持ち、腹痛や発熱から救命救急まで、垣根を設けることなく患者を受け入れている。病床数は50床で、1日の外来診療は160件を超える。鈴木昭一郎院長は「24時間365日、医療を提供することで地域の方々に安心な生活を送っていただきたい」と話す。

同院は1989年の設立。2009年に「カマチグループ」が運営母体となった。そのときから一層力を入れるようになったのが、救急医療の充実だ。同院は第二次救急病院と位置付けられており、入院治療や手術を必要とする重症患者が搬送されてくる。その数は年間2779件。200～300床レベルの大病院に匹敵する。

数が多い理由は、受け入れ率の高さにある。通常の救急車の受け入れ率は80%ほどとされるが、同院では97%。地域では「受け入れを断らない病院」が代名詞として定着している。



ゆったりした落ち着いたあるロビー



ロビーには心の和む熱帯魚の大きな水槽やタッチパネル式の情報端末も



車いすでも楽に使えるデザインのテーブルが並ぶ談話室。窓からは素晴らしい景色が広がる



消防の救急隊からも信頼されている救急体制。まずは救命救急室に運ばれる



病棟の廊下や病室にはさまざまな絵画が。ポップな絵も飾られている



院外に移動することなく薬を受け取れることが好評な院内薬局

院内の設備では、まず目を引くのがゆとりのあるロビーだ。オレンジやクリーム色などの暖色系を基調に、ソファは落ち着いた濃紺を採用。

そして、ロビーの一角、出入口近くに、昨年2月から院内薬局を開局させた。病院前の道路は交通量が多く、院外薬局への移動には危険が伴うことと、患者の負担を減らすことが目的だ。

2階から4階の病棟の壁にはたくさんの絵画が並ぶ。漫画のようなタッチであったり、外国のポスター風であったり、南欧を想像させる繊細な油絵であったりとバラエティーに富んでいる。「明るい雰囲気

気づくりに、院内の装飾をトータルでデザインしている」(鈴木院長)。一方で、個室はダークブラウンと落ち着いた風景画で高級感を醸すなど、アクセントがつけられている。

入院患者や家族から好評なのが、最上階である4階の談話室。大きな窓からは緑豊かな木々と近くには西武プリンスドーム、遠くには富士山を望める。治療から離れて気分転換ができるスペースだ。

鈴木院長がモットーとする「地域に信頼され、愛される病院」は、実績と工夫でしっかりと根付き、今後さらなる飛躍を目指している。